

令和3年度 授業改善推進プラン

武蔵村山市立第五中学校

<p>学校全体で取り組む共通事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種調査結果を基に基礎・基本の定着を重視した指導を行うとともに、問題解決的な授業を行い、課題解決に向けた思考力・判断力の育成を図る。 ○ 言語活動や学び合い学習等の活動を通して、コミュニケーション能力や言語能力を育成する。 ○ 各教科の中で「五中スタンダード」を活用した授業を行う。 		
教科	① 生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果は都平均を大きく下回り、基礎的な語彙力・読解力が身に付いていない。 ・読書習慣もついていない。 ・提出物の提出率が低く、反復して学力を定着させている生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意味調べ、単元テストを定期的に行い、語彙力、読解力の定着を図る。 ・朝読書の時間の徹底とともに、教科内で読書紹介などに取り組みさせる。 ・単元毎に単元テストを課し、ワークなどにスモールステップで取り組みさせ、学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書を含め昨年度に比べ、年間で21冊以上読む生徒が2ポイント増加した。一方、4冊以下の生徒の割合は変化が見られなかったため、読書習慣を身に付けさせるため、工夫して指導を継続する。 ・提出物をきちんと提出するよう継続的に指導する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・数学に関する用語の理解。 ・ワークシートを正確に、丁寧に書く力、復習に生かせるようにポイントを分かりやすく書く力。 ・基本的な四則計算、計算式の書き方から文字式の計算力、方程式を解く力。 ・思考力を高める応用問題を解く力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習から導入し、学習内容を振り返る。 ・毎時間、本時の目標を提示し、学習に取り組みさせる。 ・基礎基本の定着を図るため、東京ベーシックドリル等を活用して課題を設定し、定着を診断する。 ・文章題は内容の要点を提示し、自分で式が立てられるように補助を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシック・ドリルの課題の定着を見るためのテストは第1学年の四則計算と文字式の範囲では54.4%だった。第2学年では、第1学年の範囲の試験を行い、正答率が50%であったが、朝学習や夏休みの補習で復習に取り組み、正答率が64%になった。さらに定着するように課題のやり方などを工夫していく。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動不足による全身持久力の低下。 ・身に付けた知識を活かした自己の課題分析の力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップ時におけるランニングの強化と補強運動による筋力トレーニングの実施。 ・学習プリントと振り返りプリントによる課題解決の分析とその改善方法について考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップ時に屋外は校庭2周、屋内は体育館5周を習慣化し、ランニング時間も早くなった。 ・1学期よりも2学期は、学習プリントの分析力も上がり、取り組んだ結果、技能評価についても20%程度の向上が見られた。